

令和6年度 第2回北秋田市総合戦略検証会議 会議録

日時：令和6年8月21日（水）午前9時30分～10時45分

場所：市民ふれあいプラザ コムコム 多目的ホール

【出席委員】

伊藤晴樹、大穂耕一郎、佐藤真弓、庄子芳和、簾内正人、千田匡、中嶋俊彦、[座長] 三浦栄一
（五十音順、敬称略）

【欠席委員】

木村加奈子、近藤大介、田崎覚、張了了、長崎久美子、成田耕介、益田光（五十音順、敬称略）

【部長等（説明員）】

小松正彦総務部長、西根弘樹財務部長、佐藤栄作市民生活部長、三沢聡健康福祉部長、
金田浩樹産業部長、小松武志観光課長、長岐孝生建設部長、金澤誠教育次長、松橋雅徳消防長

【事務局】

福嶋統総合政策課長、永坂洋男政策係長、菅原徳人主査

開会

【会議の概要】

1. 座長あいさつ
2. 協議事項

事務局（菅原主査）説明

- ①会議資料の確認と会議の進め方について説明
- ②当日資料1「効果検証シート（個票）（No. 11、No. 106、No. 127、No. 128^{*1}）」の説明と
当日資料2「目標値達成状況確認シート（令和5年度実績確定版）」の説明を行った。
※1：前回会議で実績値等未確定の施策

（1）検証資料1

「第1回北秋田市総合戦略検証会議の意見・提言等事項一覧表」について

- ・一覧表を基に追加説明を部長等より行った後で委員との質疑応答を行った。

三浦座長）前回聞き逃した事項等も含めて、質問はあるか。

中嶋委員）追加説明に対しての質問ではないが意見として（回答は必要ない）。No. 92の「伊勢堂岱遺跡に関する市のイベントや関連団体に参加するなど既に協力している市民の割合」について。市民参加の割合は増えてきていると感じる。現在、遺跡やガイダンス施設のガイド団体が2つあり、1つは市民たちで構成される「伊勢堂岱遺跡ワーキンググループ」、もうひとつは現在小学校4年生から高校生の子もたちで構成される「伊勢堂岱遺跡ジュニアボランティアガイド」がある。来場者へガイドのアンケートも行っているが、軒並み高い評価を得ている。課題は、ワーキンググループの新規メンバーが中々伸びないことである。現在20名いるが、以前は、定年退職した知り合いに声をかけて、メンバーになっていた。来場者数を増やすのも大前提だが、世界文化遺産になった地元の遺跡

に、市民に愛着を持っていただいて、将来ガイドをしたいと思うようになっていただければありがたい。

佐藤委員） 前回言い忘れてしまった事項になる。No. 78の「心はればれゲートキーパー養成講座受講者数」について。ゲートキーパーの存在を知らない市民が多いと感じる。受講者数を増やす前に、ゲートキーパーの役割の周知をまずお願いしたい。

健康福祉部長） 広く周知するという観点で、ご意見を参考としていきたい。

庄子委員） No. 106の「公共施設（市直営施設）におけるCO₂排出量」について。対象が公共施設となっているが、廃棄物処理施設も入っての数値か。

市民生活部長） 入ってはいないが、当然ゴミの減量化についても今年度から策定をしているので、今後市民と一緒にやって取り組んでいきたいと考えている。

（2）検証資料2

「北秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 地方創生関係交付金 事業検証シート」について

- ・三浦座長から評価基準について説明を行った。担当課で予め自己分析を行った上で、検証会議で採点及び評価をする。検証会議での採点結果が36点以上なら「A」、27点～35点なら「B」、23点～26点なら「C」、22点以下なら「D」という内容（各項目5点満点、45点満点）。
- ・地方創生関係交付金事業（該当部署：観光課）について、担当課より説明を行った後で委員との質疑を行った。

事業名：「奥秋田サステイナブルツーリズムプロジェクト」（説明：観光課長）

大穂委員） 具体的な取組内容について、教えてほしい。

観光課長） 具体的な取り組みを挙げると、例えばマタギロングトレイルというトレイルの開発をしている。阿仁前田エリアから八幡平エリアまで延びるルートで、昔マタギが歩いていたルートと言われている。令和5年度は、その開発に注力したが、クマ出没が多く発生し、開発は予定通り進まなかったが、今年度は、実際に商品化を視野に入れ、モニターツアーをする予定。

庄子委員） 今説明されたコンテンツ造成などを引き続きやっていただきたいと思う。質問だが、シートに記載のKPI①～③については、4市町村全体の数値か、それとも北秋田市のみの数値か。

観光課長） 4市町村全体の数値となる。

庄子委員） その上での要望となるが、KPI②と③については、受入農家さんの数が少ないことから、北秋田市の割合は少ないと思う。北秋田市内でよりよい施策等をDMOと行っていけるように、市でも引き続き、DMOに対し意見要望を積極的に出してほしい。

観光課長） K P I ②と③については、修学旅行、農家民泊等の指標となるため、北秋田市分では少ないのが現状である。連携している4市町村の観光客の動きをみていると、観光に来るのは北秋田市等で、宿泊は大館市とはっきり分かれている印象がある。北秋田市にどうやってお金を落としていただくか等、DMOにも意見を出していきたい。DMOは広域の枠を確保しながら、それぞれの自治体と連携している。観光客の動態なども県とDMOで把握しているので、それを踏まえてどういった施策ができるかDMOに提案してもらうことにしている。

中嶋委員） 遺跡で団体ツアーのガイドをする際に宿泊先なども把握するようにしているが、傾向的に多く感じるのが、前日、青森市や弘前市内の遺跡を巡った後、伊勢堂岱遺跡に見学に来て、宿泊は大館市や鹿角市で宿泊されるパターン。団体を受け入れられる宿泊施設に限りがある中で、どう対策するか課題とを感じる。

産業部長） 宿泊に関しては、詳しい話を話せる段階ではないが、現在ホテル等の誘致にも力を入れている。北秋田市内で宿泊していただけるように引き続き、誘致活動を進めていきたい。

庄子委員） ホテルの誘致を進めながら、既存の体験コンテンツの充実と宿泊事業者と連携しながら、今できることを取り組んでいければと個人的に感じる。

簾内委員） 先日、打当温泉を見させていただいた。そこで改めて感じたことだが、市で世界に誇れるコンテンツは「マタギ文化」だなと感じた。国内宿泊者、外国人宿泊者にもリアルなマタギの文化を宿泊施設で見せることが大事だと感じた。

伊藤委員） 多くの宿泊業で抱えているのが人手不足の問題。県内の自治体でも、観光庁の交付金などを活用しながら人手不足等の解消に向け、取り組んでいる事例がある。

■担当課による自己分析

34点（内訳：妥当性評価12点、有効性評価12点、効率性評価10）でB評価

■検証会議での採点結果

33点（内訳：妥当性評価12点、有効性評価12点、効率性評価9点）でB評価

（3）その他

三浦座長） 全体を通して意見等はないか。

それでは、頂いた意見を私と事務局でまとめて皆さんに報告する。

閉会